

■発行 特定非営利活動法人
地球の木 理事会
■発行責任 丸谷士都子
■編集 広報部
■事務局 〒231-0032
横浜市中区不老町1-3-3
フェニックス関内2F
TEL 045-228-1575
FAX 045-228-1578
E-Mail:CZR10753@nifty.ne.jp
http://homepage1.nifty.com/EarthTree

No.17
2003. 12. 1

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

CONTENTS

- たくさんの地球市民を作るために
- 共同農業から家族型農業へ
- 支援地から
- シンプルライフキャンペーン
- 会員からの手紙
- ニューリッチマン中近東の旅
- ランチから
- 活動日誌
- INFORMATION



地球市民を 作るために

理事 中野真理子

アマゾンとハンバーガー？

「地球市民教育」ということばを聞いたことがありますか？日本国民という意識は誰にでもあると思います。ではアジア人とか地球人となるとどうでしょうか？私たちの食べものや身の回りの品々や人々にチョット目を向けてみてください。私たちの暮らしがいかにか多くの外国とのかかわりの中で成り立っているのかということに気づかされます。現代ではグローバルな（地球規模の）相互依存の世界に暮らしていることがわかります。そうすると地球規模で起こる様々な問題は決して遠いよその国の出来事ではすまされず、必ずお互いの生活に影響を及ぼしていることとなります。

地下鉄の広告に「あなたを冷やすと地球は熱くなる」というのがありました。地球温暖化を少しでも食い止めるために冷房を控えめにしていることを乗客に理解してもらおう広告です。私たちがエネルギーを使い過ぎるとヒマラヤの雪がとけ、ふもとの村が洪水で流される。私たちがハンバーガーを食べるとその食肉用の牛の育成にアマゾンの広大な森が切り開かれて牧場が造られ、更に森に暮らす人びとの生活を脅かすといった地球サイズの連鎖反応の例はいくらでもあげられます。

こういった環境や人権、開発などの地球規模の問題と私たちの暮らし方とのつながりを知り、どう行動したらいいか地球に暮らす私たちの自覚と責任を育てようというのが「地球市民教育」です。

ゲームで知る世界の不均衡

地球の木ではアジアの支援地のプロジェクト及びそこから学んだことを地域で伝え、共に考えていくことを国内活動の大きな柱としています。また「マジカルバナナ」という教材制作がきっかけとなって、学校への出前講座

に行くことも増えてきました。その主な内容はマジカルバナナの他、ネパールの識字教室をテーマにした家族ゲーム、ネパールやフィリピンの暮らしや文化紹介、世界経済の不公平な仕組みを体験する貿易ゲームや平和をテーマにしたワークショップなどです。

学校での「マジカルバナナ」ワークショップの最後によくやるのは、バナナを使った世界の食糧配分体験です。全世界の食糧は足りているのに、不公平な配分で2割の先進国の人々が8割の食糧を食べてしまい、8割の人々がたった2割の食糧を分け合わなければならない現実を見せるとクラスはシーンとなってしまいます。「それじゃあ、どのように分けたいと思う？」クラスを小さな世界と考え、子どもたちに解決法を考えさせます。もちろん現実は大変複雑なのですが、子どもたちは目指すべき世界のあり方を感じ取ります。

私が地球の木に入会したのは、ただ途上国の気の毒な人たちにいくばくかの募金でも役に立ててもらいたいと思ったからでした。しかし根本的な問題は募金では解決しないのです。今までどおりの経済最優先の社会を選択し続けていくなら、地球自体の持続可能性が危うくなってきている状況にあることを私自身がようやくわかり、自らの不遜な思いにも気づかされたのでした。問題の解決方法の多くの部分は私たちの暮らし方の選択にあるのです。

地球の木では石油に頼らないシンプルな暮らし方が戦争の原因の一つを取り除き、平和につながる、というシンプルライフ・キャンペーンを行っています。あなたは地球市民の一人としてどういう選択をしますか？それが私たち一人ひとりに問われていることなのだと思います。
(地球市民教育チームリーダー)

・写真は先生を対象に出前講座を行う筆者



タバコ1本から買えるサリサリストアー

共同型農業から 家族型農業へ

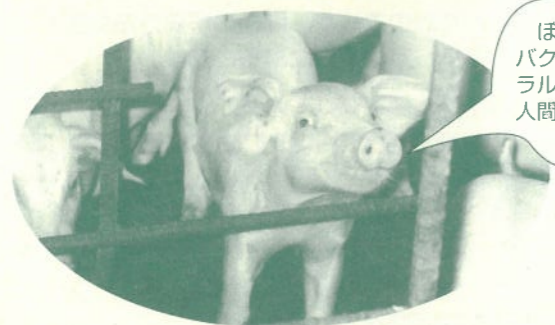
フィリピンチーム
米林 大作

フィリピンチームでは7月28日～8月3日、私たちの支援先ツブラン農場およびJCNCが実施している他のプロジェクトの調査を行いました。また10月7日のエスペランサ農園の収穫祭に個人として参加しました。

12年目を迎えたネグロス支援

砂糖農園と大地主の島そして希望の島ネグロス。「生活クラブ生協」のバナナを通し、ネグロスの状況に関心をもつ会員の多かった「地球の木」では「日本ネグロス・キャンペーン委員会（JCNC）」に協力し、1992年から砂糖農園労働者の自立のための支援を始めました。しかし、ネグロス西州の農地改革は対象地の半分ほどしか進まず、エスペランサ農園に象徴されるように、今だに地主の強い抵抗にあっています。10年の時限立法として1988年に制定された「包括的農地改革法」も更に10年延長されましたが、残すところ5年となってしまいました。地主側はさらに延長されることはないともて期限切れを期待しています。また地主に忠誠的な労働者を取り込んで、実態は農地解放前とたいして変わる事のない地主と労働者による合併企業方式を取る農園もできてきました。

現在JCNCの支援している主な農園は5ヶ所211家族、それらの農園では共同型農業により自立の道を進めてきました。JCNCの協力する現地NGO「PAP21」では、今期「共同型農業から家族型農業への移行」の方針を打ち出しました。これは農業の基本は家族にあり、家族ごとに意欲を持って取り組む必要があると考えたからです。各農園ではモデルとなる家族を選び、家族が協力しあって利益の出せる循環型農業をめざします。「地球の木」では現在、循環型農業の実験・研修の場となっているツブラン農場の活動に支援を行っています。また募金によりエスペランサ農園の土地闘争の支援も行っています。



ほくも飲んでる
バクテリア・ミネラル・ウォーター
人間も飲めるんだよ

セブに学ぶ

ツブラン農場の役割は循環型農業の実験的モデルとして自立すること、そして研修活動により農業技術を各農園へ普及させていくことです。ツブランの循環型農業はBMW(バクテリア・ミネラル・ウォーター)プラントが中心的存在となっています。これには養豚から出る尿が使用され、プラントを通して生物活性水が作り出されます。これを液肥として稲、砂糖キビ、トウモロコシ、野菜、果樹などの栽培に使用します。しかしツブラン農場では、BMWを使用したしっかりした栽培モデルがまだできあがっていないように思えました。また豚の糞やミミズを利用した堆肥もつくられています。「地球の木」では特にツブラン農場の研修活動を重視しています。

今回の調査で、私たちはネグロスの隣の島セブ島のカルマンパオ村を訪問しました。ここではJCNCの支援により精米やサリサリストアー(よるず屋)事業が軌道にのり、町のマーケットへの共同出荷事業も行われていました。この村の農民はネグロス島の場合と異なり小作農から土地を得た人たちです。農業にかける意欲の強さを感じました。その後9月にセブ島で行われたネグロス/セブ農民交流研修には、ネグロス側からモデル農家に選ばれている16名が参加しました。交流研修終了後のJCNCの報告では、ネグロス側の参加者は農業で食べている人たちを実際に見て、自分たちにもできるという自信を持つことができたようです。またネグロスからの参加者の感想として「ずっと砂糖農園で働いてきた者は保守的で、賃金をもらって働くという発想しかもてない人が多く、新しいことを取り入れようとしません」とありました。身につまされる思いがします。

ツブラン農場で6ヶ月研修を受けた若者の何人かが農園に残らず町に稼ぎに出ている話を聞きました。ネグロスの循環型農業はまだ現金収入に結びつくことが少ないのかと思いました。今後ネグロスでは生産者もかわる流通・販売システムをつくるのが大きな課題となっています。



フィリピン共和国基礎データ

- 面積：299,404平方km (日本の8割の広さ)
7,109の島がある。全土の4分の3以上が山岳地帯
- 人口：7,650万人 (2000年5月国勢調査値)
- 民族：マレー系が主体。他に中国系、スペイン系及びこれらとの混血、少数民族
- 言語：国語はフィリピン語、公用語はフィリピン語と英語。80前後の言語があり、ネグロス西州ではイロongo語が使われている。
- 宗教：国民の83%がカトリック。その他のキリスト教が10%、イスラム教は5%
- 識字率：93.9% (95年調査)
- 首都：マニラ
- 植民地支配：スペインに330年、アメリカに40年、日本に3年半支配される
- 主要援助国実績：(1) 日本60.6%
(2) アメリカ合衆国15.0%
(3) オーストラリア6.9%

収穫祭に参加

エスペランサ農園農民組合は1999年、農地改革により土地所有権裁定証書を政府から受け取りました。しかし元地主の度重なる提訴により裁判が続けられ農園では耕作が妨害されてきました。そして2003年3月には元地主側の発砲により1人死亡、2人負傷という惨事が引き起こされました。この事件を簡単にすませようという警察に対し、農民組合では元地主を含め42名を殺人罪、殺人幇助罪で告訴しています。現在この告訴を取り上げるかどうかの審査が行われています。

エスペランサ農園では砂糖キビが3メートル近くに成長し収穫期を迎えました。現地では銃弾に倒れたジョニー・ガイランさんの冥福を祈り、収穫を感謝するミサを開催することになりました。この収穫祭で海外の支援者とエスペランサ農民の連帯をアピールし、地主側の暴力を未然に防ぎたいという思いから10月7日の収穫祭に私も含め7名が日本から参加しました。収穫祭はジョニーさんらが銃撃された場所で行われ、農



ジョニーが撃たれたサトウキビ畑で収穫感謝祭と追悼のミサが行われた

地改革省次官、ネグロス西州知事代理、ネグロス西州農地改革責任者、関係NGOなども出席しました。現地では広域国家警察の18名が駐留しています。あとで聞いた話では同日、地主側の収穫祭も行われ、そちらにも農地改革省次官が招かれ出席したとのことでした。ミサではジョニーさんの奥さんと2人の子どもの嘆き悲しむ姿が

印象に残りました。その日はエスペランサ農園に泊りましたが、その地域では地主側と農民組合側の人々が道を隔てて住んでいます。夜になると地主側の家々には明かりがともり、テレビなどを見ているのに対し、農民組合側は電気が切られているのに驚きました。地主側には簡易水道も引かれているそうです。

翌10月8日から砂糖キビの収穫が始まり、初刈りの砂糖キビをかじることができました。甘くさわやかでした。約110ヘクタールの砂糖キビ畑の収穫は来年の2月まで続きます。収穫が無事終わり、収入が得られることを願ってやみません。

カンボジアから

将来に向け新たな展開が

20名の子どもたちが暮らすバットバンの子育てセンターは、市の中心部より車で50分ほどかかる農村地帯にあります。周りには田んぼが広がり、夜にはホテルが飛びかうほどの好環境ですが、村の中心部からも離れており、周りに人家はありません。



自転車が贈られてからは中学校への通学がだいぶ便利になりましたが、ここを拠点とする限り高校進学は難しく、職業選択の幅もなく、自立への進路が限られてしまうことは否めません。農業を志す子どももいますが、成績が優秀で進学を希望する子も現われてきました。一人ひとりの子どもをていねいに育てることに心を砕いてきた現地NGOのメンバーも、もうひとつの拠点をもちたいという必要性を感じてきました。

また、子どもたちの成長にともなって男女別棟の住まいが必要となり、更に思春期の子どもへの精神的ケアの面からも、そのための教育を受けた寮母、寮父が必要となっています。そのためには新たな土地でのチャルドケアセンターの建設が求められています。

このような必要性を感じていた矢先に、アンコールワット遺跡の町シエムリアップに一軒家を借りることができました。ここは、るしな代表の松本氏が、トンレサップ湖環境保護活動の拠点とするために私費を投じて開いた第二の事務所兼ピザレストランの近くです。

10月現在、現地スタッフのサレツが常駐し女子6名とバーン兄弟の末っ子男子1名を養育しています。ここで子どもたちはシエムリアップの学校に通い、伝統舞踊のレッスンを受けスタッフとともに自炊をして生活をしています。ここなら高校への進学が可能で、様々な職業体験ができます。また、新たな拠点を探すためにもひとつの足がかりとなってくれることでしょう。バットバンの子どもたちも、寮母のアヴィーとその夫のもと元気に暮らしています。新ケアセンターの建設や、教育を受けた寮父を雇用するためには資金が必要です。年末募金も行いますので是非ご協力ください。

(カンボジアチーム 小泉 恵子)

プロジェクト名

●バットバン州の子育てセンター支援

ネパールから

秋はまつり一色

まつりの日、娘の額に赤いティカをつけて祝福する母親



地球の木のみなさま、
ティハール祭おめでとう！

ティハールとは光を意味し、光のまつりです。鳥、動物、人間の繁栄と幸せのために、互いの調和ある関係を維持することを象徴するものです。まつりの初日はカラスを祝福します。カラスは鳥を象徴するとともに、死の神へのメッセンジャーでもあります。次の日は犬を祝福します。人間を守る、最も身近な動物だからです。今日はまつりの2日目です。3日目に繁栄の女神を象徴する雌牛を祝福します。4日目は、私たち自身（基本的にはネパール族の風習ですが）を祝福します。どの人間も永遠の存在の一部だからです。5日目は、女性たちが男の兄弟を祝福します。

待ち望んでいたお返事ありがとうございました。地球の木は、新しい事務所、新体制の下、来たるべき時代への自立した社会作り大きく貢献し、新しいビジョンと方向性を打ち立てるために研鑽を重ねていることが伝わってきます。

ネパールの状況は先週以来少しずつ改善しつつあります。マオイストは一般市民の殺害やインフラの破壊には関与しないと宣言しました。これは村での活動を開始できると期待できる兆候です。2週間前、アルジュンをカトマンズに招いて現況を聞き、活動開始の可否について討議しました。彼は「活動を始める可能性はある。但し、識字教室は昼間に行った方がよい」と提案しています。女性たちも昼間のクラスへの参加に関心を寄せているとのことでした。私たちが提案した活動の大部分に積極的な反応を寄せてくださり、ありがとうございました。カイラリ郡の識字教室から始め、次にイマドールの女性起業に取り組みたいと考えています。

イマドールのリソースセンターはうまく運営されています。いくつかの団体が当センターでトレーニングを始めました。青少年クラブも順調です。

感謝の気持ちをこめて、ニルマラK.C.

*極西部のローカルスタッフ

●女性のための教育支援

ラオスから

村人を助けることの難しさ

3年ほど前、植林会社がナボー村で植林事業を計画し、カムアン県や郡から植林許可をとりました。ナボー村ではこの植林が全体の環境への負荷も少なく、また一時的な賃労働の機会も生まれることから事業を承知しました。会社側は、植林作業に賃金を支払うことを条件に、村人を駆り出しました。しかし、3年たっても賃金が支払われず、業を煮やした村人たちは植林地を囲む柵を持ち去ってしまいました。その結果、植林地内へ牛が入り苗木を食いつくしました。これに対し、植林会社が村人たちに柵の弁償や再植林を要求するということが起こっています。

JVCは、村人からの訴えを聞き、状況を確認しに行ったり、何度か郡とも協議し意見を述べました。しかし、村人、郡、警察、企業による問題解決のための会議の結果、村人たちは再植林や罰金の支払いという重すぎる罪を課せられました。その会議でそれぞれが対等に意見の言える状況であったのか疑問が残るし、役所内の内実がなかなか伝わってこないことなどにジレンマを感じています。

ラオスでは社会体制上、物事に対して批判の目を向けることが難しく、特に政府の方針や開発の方向を変えていくのは困難です。森林や土地については、そもそも個人や企業がそれ取得する手続きも明確でなく役人もよく理解していません。今回、JVCは村人と役人の言い分をよく聞き、不十分な情報を補うなど仲介役をつとめていますが、最終的な判断は村人にゆだねています。

このようなことが今後起こらないようにするために、私たちが第三者だからできるひとつのことがあります。それはこの植林企業が、アジア開発銀行(ADB)から融資を受けて事業を行っていることに目を向けることです。ADBの援助の末端で起きているこれらの現実を広く世間に伝え、ADBの融資のあり方を考え直させる力になりたいと思うのです。

(JVCラオス・カムアン事務所 中村 咲野)

*アジア開発銀行(ADB)：アジア太平洋地域の貧困削減を目指す61ヶ国の加盟国からなる国際開発金融機関。日本は最大の出資国で全体の20%を出している。

●カムアン県 森林保全・自然農業・農村女性の自立支援

シンプルライフ キャンペーン

え!!シンプルなくらしが平和につながるの? -冬編- 料理で体も心もボカボカに

寒い日は、台所の熱を使って部屋を暖めます。ケーキを焼いたり、小豆をコトコト煮たり、身欠きニシンをじっくり時間をかけて煮ます。炊飯器を使って甘酒造りもいいものです。部屋も少し暖かくなって、「ワー、寒いなあ、きょうは」なんて言いながら背中を丸めて火鉢のそばで、焼きたてのケーキと熱々のコーヒーで体の中から暖める作戦です。

冬は冬らしく暮らしたいというのが私の基本姿勢で「寒い!」と思うから火がうれしかったり、暖かい飲み物や料理がうれしかったりしますよね。



(並河 好美)

シンプルライフキャンペーン

たくさんの方から寄せられた「シンプルにくらしアイデア」がA5版の小冊子になりました。各づけて「Be Simple」。

ご希望の方は200円切手を同封し「地球の木」事務局「シンプルライフキャンペーン係」まで郵送して下さい。小冊子、キャンペーンステッカー、関連行事のお知らせ等をお送りします。

引き続きアイデアを募集中。採用された方の中から抽選で3名の方に「地球の木オリジナルTシャツ」をプレゼントします。(期間2004年3月31日まで)

会員からの手紙

Dear 地球の木 10月11日
……単なる援助でなく自立支援をしていることを高く評価しております。

日本は近代化と共に確かに経済的には豊かになりましたが、伝統的文化の良いところも破壊された気がします。支援先の方々が持っている伝統的文化の良い側面は正しく評価し、誇りをもっていただくこと、そしてそれらをこちらにも伝えていただきたいものと思っています。…… 本田まり子(なんぶランチ)

ニューリッチマン

中近東の旅

質問者(Q): 米林 大作
 ニューリッチマン(NRM): ?



Q イラク戦争も最終段階とされていた頃、中東へ行かれたそうですが、今日はその時のことを聞かせてください。

NRM サラーム・アレクム

Q なんですか、それ。

NRM 中東のことを聞いたら、アレクム・サラームと返すくらいのことをして欲しい。イスラム圏の挨拶。まず、イスタンブールへ飛んだ。モスクワ経由でチケット代57,000円、地下鉄と路面電車で旧市街まで200万リラ約160円。旧市街では、8ドルの宿に泊まった。朝食付。

Q そういうことは「地球の木の登り方」を読めばわかります。中東へ行ったのならもっとシリアスな話があるでしょう。

NRM そう、シリアへ行った。トルコから。シリアではイラク国境の町、アブカマルまで行き国境まで6キロ歩いた。熱かった。途中何かくれという子どもたちを無視したら石を投げられた。インティファダ(民衆蜂起)かと思ってしまった。国境は出るも入るもできなかった。

Q 国境からどうしたんですか。

NRM ユーフラテス川沿いに戻り、デリゾールという町へ行った。そこの宿で働くイラク人と知り合った。彼は自分で作っていた昼食の「そのまんまトマトご飯」をご馳走してくれた。彼はスンニー派だからサダムを支持するそうだ。私が、サダムと親族は私腹を肥やしていると言うと「アリババ」はこの権力者もやっているだろうと言った。

Q 国益というの「アリババ」でしょうか。

NRM そう、奴らは人道マスクをつけている。ニューリッチマンの敵だ。

Q 日本では自衛隊をイラクへ派遣すると言っていますが…

NRM だいたいこの地域では自国の軍隊を含め、軍に

はいいイメージを持っている人は少ないと思う。支援というのは現地に溶け込み、地域の人たちと親しい関係を作ることが大切だ。軍隊はそんなことを訓練している団体ではないだろう。

Q イラクをやめてヨルダンからエルサレムへ行かれたそうですが、なぜですか。

NRM ……戦争でガーンとやって、それ復興、それ行けというムードが嫌になったこともある。エルサレムで同宿だったアメリカ人の女性はピースナウ(イスラエルの平和運動)と連絡を取り、紛争が起きそうな所へ行った。外国人がいることで軍の行動を抑制することができるそうだ。あまり伊立たないといっていたがすばらしい。

Q パレスチナで何を感じましたか。

NRM 現在アメリカがやっている「予防戦争」、脅威があるとみなせば、先手を打ってやっつける戦法はイスラエルがやっていることだった。とにかく戦闘をやめてほしい。イスラエルはパレスチナの人々を1948年以来追放してきたことを認めた上で話し合いを行うべきだ。

Q 帰りはシリア、トルコのクルド人が多く住む地域に行かれたそうですが。

NRM イラクではイラン・イラク戦争の時に化学兵器によるクルド人虐殺があった。トルコでも長い間クルド民族を主張すると弾圧されてきた。他の国は国益を考え、無視か支援かを決めるのだろう。クルド内でもいくつかに分かれ衝突を起こしている。民族は内にも外にも利用されやすい。トルコでクルド人の一番多く住むディヤルバクルに行った。そこで昼食に小学校から家に帰るクルド人姉妹に会った。誘われて家で昼食をご馳走になってしまった。あやしげなニューリッチマンを子どもが家に連れて帰り食事をご馳走するなんて日本では考えられない。 サラーム・アレクム。

イランチから

力をあわせてワークショップや交流会

5月早々、港南国際交流ラウンジから「夏休み親子対象のマジカルバナナワークショップをしませんか」という誘いがあり、理事や地球市民教育チームメンバーの力を借りずに、思い切ってなんぶの運営委員だけでやってみようということになりました。当日は「つるみオープンカフェ」と重なるので、マジカルバナナの担当を3人と決め、早速講師を招いて学習会を開催、猛勉強を始めました。完成度の高いオリジナル開発教育教材があるという安心感がありましたが、対象が違えばやり方は違います。今回は小学校の中学年が対象。フィリピンについてどれくらい知っているだろうか、クイズはどの程度の難易度が適当だろうか、ロールプレイの内容を理解できるだろうか、子どもたちが考える時間を十分とるために時間配分はどうやってなど、まさに手探り状態。ロールプレイの台本に手を加え、新しい道具も用意しました。『バナナと日本人』も20年ぶりに読みかえました。

さて当日は夏休み中の天候不順のせいもあってか、残念ながら親子の参加はなし。ボランティアに来てくれた男子高校生2人と女子大学生、韓国研修生、そしてラウンジのスタッフを相手にワークショップをすることになりました。皆さんがうまく「のって」くれたこともあり、「楽しいワークショップだった」「バナナのことからフィリピンの現状を知り、勉強になった」などの感想をもらうことができ、初めてにしては一応成功したと言えると思います。しかし何といても、準備をすすめる中で、私たち自身があらためてネグロス島のバナナ村のこと、ミンダナオ島のプランテーションのこと、そしてワークショップをすることの意味など、多くのことを学ぶことができたことが最大の収穫でした。

9月には、生活クラブ南コモンズ六南クラブから「在日外国人との交流会」の出前講座依頼があり、中国人留学生とネパール人女性を迎えての交流会を開催しました。

年度の後半は、運営委員自身が地球の木のプロジェクトについてもっと学習したいという意欲が高まっている中、学習会の企画を考えているところです。

(なんぶランチ代表 真矢 公子)

おいしく食べてボランティア

川崎ランチでは、川崎北・横浜とうぶの3ランチ合同の交流会を開催しました。10月18日(土)小田急線生田駅近くのカンボジア料理店「チ・キャン」で、在日カンボジアの方をお呼びして「食事会」を持ちました。日本国籍を取得した秦野市在住の宇野京子さんと、「東南アジアの人々と共に歩む会」の原田慎一さんからカンボジアの国情や日本で在日カンボジアの方の現状をお聞きする事が出来て、たいへん有意義なひと時でした。

宇野京子さんはさまざまな問題に前向きに立ち向かってこられた方です。お料理が得意ということでしたので、是非今度は、宇野さんによる「カンボジア料理講習会」を開きたいという意見が出ました。16人の参加で店内は満席になり、盛況のうちに終わりました。会費の一部は、カンボジアの子どもたちへの支援に使われることになっています。(川崎ランチ代表 西田千代子)

出前講座

湘南ランチでは、善行中学(藤沢市)、円蔵中学・北陽中学(茅ヶ崎市)などからの依頼で出前講座を行いました。善行中学では10月24日のマジカルバナナの授業のあとに、生徒たちはグループに分かれて調べる学習をしました。そして、もう一度出前講座を開いてほしいと依頼がありました。

先生より「生徒たちは、アジアの国々と自分とのかかわりを振り返り、また自分にできることはなんだろうと考え始めています」というお礼の言葉をいただきました。

また、10月11日にはニューリッチマン氏を招いて、中東の話を聞きました。(湘南ランチ代表 國分 純子)

あなたも出てみませんか?

毎月、2ヶ所でランチ連絡会を開いています。プロジェクトの学習会、地域活動の情報交換など、地球の木が地域でよりよく活動していくための会です。会員同士の交流の場にもなっています。

会員はもちろん、地球の木に関心のある方、どうぞご参加ください。日時は事務局にお問い合わせください。

活動日誌 (9月~11月抜粋)

- 9月15日 聖母の園バザー
- 18日 「日本に住む外国人との交流会」生活クラブ南コモンズ主催
- 29日 「自力整体」一日体験
- 10月3日 フィリピン報告会(県央「バオバブ」)
- 4,5日 国際協力フェスティバル2003(日比谷) ワークショップ開催「マジカルバナナ」
- 5日 開成スポーツフェスティバル
- 10日 マイ・ハピネス(青年会議所)
- 11日 フィリピン報告会(湘南)
- 11,12日 横浜国際協力まつり2003 セミナー開催「えっ?シンプルな暮らしが平和につながるの?」

- 15日 ラオスチーム主催 連続学習会 「私たちの身近な森と農業」
- 第1回「自然と共に生きる」(地球の木事務所)
- 18日 第2回「里山を歩いてみよう」(フィールドワーク)
- 18日 磯子区国際交流まつり
- 18日 カンボジア料理交流会「食べて笑ってカンボジア」 レストラン「チ・キャン」にて
- 18日 国際親善のつどい(JICA横浜国際センター)
- 19日 フォーラムまつり(横浜女性フォーラム)
- 19日 コミュニティまつり(東戸塚、すすきのデポー)
- 19日 コミュニティまつり(大丸デポー)

- 19日 さがみはら国際交流フェスティバル
- 23日 ネパール勉強会「シャプラニールの岡山さんと話そう」
- 24日 善行中学校出前講座
- 24~26日 横浜学生映画祭(開港記念会館)
- 25日 笑天(鎌倉宮)
- 26日 バンバザー(相模原)
- 26日 緑区民まつり
- 11月1日 旬の元気市(ほくぶ)
- 3~5日 「有機農法いきいき体験」 ワークキャンプINアジア学院(西那須野)
- 6日 住吉高校出前講座

- 8日 日朝平和ミサンガ祭典 「南北ロシアと日本のともだち展」出展
- 9日 市民フェスタ (西湘、なんぶ、相模、県央、三浦、ほくぶ、とうぶ)
- 16日 かまくら国際交流フェスティバル2003(三浦)
- 16日 さくらもとボンムルノリ(川崎)
- 21日 瀬谷西高校出前講座
- 24日 国際子ども夢ワールド(ほくぶ)
- 28日 エスプランサ報告会

あなたもカレンダーで国際協力を 今年のテーマは「子どもたちのアフガニスタン」

アフガニスタンの自然と共に、子どもたちの生き生きとした表情や様子が私たちに未知なるアフガニスタンを教えてくれます。

カレンダーの収益は、アジアの人たちの自立を助ける地球の木のプロジェクトに使われます。

誕生日やクリスマスのプレゼントに是非お使いください。申し込みは事務局まで。

(使用時サイズ41cm×56cm 一部1,500円)



NEWマジカルバナないよいよ登場

地球の木オリジナル教材が
より使いやすくなって完成しました

フィリピンの暮らしを読み取るフォトランゲージ用写真、バナナの資料写真など、視覚教材が充実。バナナの世界を広げるカラー版「バナナものがたり」の付録もつきました。



キットの内容

1. バナナクイズ、フィリピンクイズ
2. カードゲーム
3. フォトランゲージ
4. ロールプレイ
5. ふりがえり



付録、バナナものがたり
地域や学校で使ってみませんか？
1セット 1,500円

募金・寄付をありがとうございました

●エスペランサ募金 ● (敬称略)

尾藤尚美 Tea & Talk有志
井上知子 本田まり子

(8~10月/合計金額9,533円)

●寄付金 ● (敬称略)

原田和子 ラオスチーム 後藤淳子
鈴木修子 とうぶランチ 竹内宏子
ファイバーリサイクル泉谷 泉芳仁
e-ボランティアカンボジア募金

(8~10月/合計金額157,176円)

地球の木とは、

地球上のすべての人々が自然と共存し、人が人らしくあたりまえに生きていくことが出来るように、地域と地域を結ぶ国際協力活動を行ない、相互理解を深める社会教育活動を通して、お互いの人権を尊重し、それぞれが自立した生き方を創造することを目的としています。

年末募金キャンペーンのお願い

今年も「募金キャンペーン」の季節がやってきました！

今回、皆様をお願いする募金は以下の3つです。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

- ・エスペランサ募金 (フィリピン)
- ・カンボジア教育募金
- ・デブラニ募金 (ネパール)

ご協力をどうぞよろしくお願いたします。

郵便振替口座 00260-5-14129「地球の木」キャンペーン

手のひらから世界へ平和を発信しよう



日時

2003年12月23日(火)~26日(金)
9:30~16:50(初日13:00open
最終日15:00close)

会場

平塚市・市民アートギャラリー

■パネル展示■
シンプルなくらしが
平和へつながる？

地球の木はシンプルキャンペーン
のパネル展示で参加

会費の引き落としについて

地球の木のプロジェクトはあなたの会費で支えられています。

引き落とし日は下記の通りです。

6月 ・郵便局：6月30日 ・銀行：7月3日
12月 ・郵便局：12月30日 ・銀行：1月5日

■お詫びと訂正

前号の8ページ「インフォメーション」の記事中、事務局の電話番号にまちがいがありました。

正しい番号は、228-1575です。

マジカルバナナの価格に変更がありました。

一部¥1,200⇒¥1,500

事務局よりお願い

- 転居される場合は新しいご住所を必ずご連絡下さい。
- 会費の自動引き落としをご希望の方はご連絡下さい。